

## 那賀川鉄橋列車銃撃76年

# 戦争の記憶 継承を

太平洋戦争末期の1945年7月、阿南市の那賀川鉄橋で列車が米軍機に銃撃されて76年を迎えた30日、地元「那賀川鉄橋列車爆撃を語り継ぐ会」が鉄橋や石碑を巡る見学ウォークを開いた。19回目の今年を最後に世話人の河野孝子さん(76)も同市那賀川町中島Ⅱが世話人から退くため、来年以降の開催は未定。参加者約30人は不戦の誓いを新たにされた。

## 語り継ぐ会 現地巡る

那賀川鉄橋列車銃撃は、牟岐方面へと鉄橋を渡っていた列車が米軍機の機銃掃射などを浴び、死者約30人、負傷者20人以上を出した。

見学ウォークでは、今も弾痕が残る鉄橋や、戦後60年の節目に当時の那賀川町婦人会が建立した平和の碑を歩いて回った。空襲時に11歳だった下内健さん(87)も同市那賀川町中島Ⅱが阿波中島駅で体験談を語り、列車の乗客が那賀川に飛び込んだり、線路に逃げ出した

鉄橋に刻まれた弾痕を確かめる参加者Ⅱ阿南市那賀川町

## 世話人引退 存続の危機

たりしたところを銃撃された惨状を振り返った。初めて参加した瀬戸昌子さん(74)も石井町石井Ⅱは「曲がった鉄骨を目にし、すさまじさが生々しく想像できた。こんな残酷な事が二度とあつてはならない」と話した。

語り継ぐ会は2003年、生協組合員として平和問題に強い関心があった河野さんが「地元の戦争の悲劇に目を向けた」と始めた。毎年7月30日に体験者を語り部に迎えるなどして戦争の恐ろしさや平和への思いを伝えてきた。しかし体力が衰え、来年以降は運営に携わらない。

河野さんは「終戦の年に生まれ、自分の年と戦後が同じなので平和には特別な思いがある。ぜひ参加者に見学ウォークを引き継いでもらい、戦災の記憶が風化しないよう若い世代にも伝えてほしい」と思いを託した。

(田尾聡)

